

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	一人一人が伝えたいと思うことや考えをもち、表現する力を伸ばせるよう、課題を的確にとらえ、主体的に考えることができるよう工夫する。	中間評価	学習課題を明確にし、考える視点を示すことで、主体的に考えることが少しずつできるようになってきた。	最終評価	学習課題を明確にした授業を積み重ねたことで、正しく問題を捉え、自分の考えを導き出し、表現する力を伸ばすことができた。
環境作り		多様な交流の場を設定し、相互評価等、児童相互が良さを認め合い高め合う活動を工夫し、支持的風土を醸成する。		ペアやグループ学習、ＩＣＴを活用した意見交流など、様々な交流を通して、互いの良さを認め合っている。		交流の仕方を工夫し、機会を多く設定したことで、互いの良さに気づき、自ら表現しようとする意欲が高まった。

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課 題（10 月）	改善のための取組（10 月）	最終評価（2 月）	
1	国語	学示された話型に沿って、話すことに慣れてきた。声の大きさを調節することが難しい児童も見られる。 学・集中して、話を聞いたり読んだりして内容を理解することが少しずつできるようになってきた。 学作文は、書きたいことを書けるようになってきたが、助詞や、促音、拗音の正しい記述が、まだ十分に身に付いていない。 学字形の特徴を捉えて、平仮名、片仮名、漢字を書くことには個人差が見られる。	・話を聞き、大事なことを聞きとること。 ・その場に合った声で、はっきり話すこと。 ・問われていることを理解して、文を読み取ること。 ・学習した文字を正しく丁寧に書くこと。	・読み聞かせや聞き取り練習などを日常的に行い、集中して聞く機会を多くもつようにする。 ・声の物差しや口の開け方を適宜示し、良い話し方をしている児童に注目させることで、自分の話し方の改善につなげる。 ・指で押さえながら読む、大事な箇所に線を引かせる、挿絵に注目させるなど、課題の与え方を工夫する。 ・毎日、書き取りの宿題を出し、丁寧に書けるよう、繰り返し練習させる。	学姿勢や視線を意識させることで集中して聞き取ることができるようになってきた。言葉の意味が分からないために、内容の理解が十分できないことも見られたので、教師が言葉の選び方を吟味すると同時に、語彙力を増やす取り組みを考えていきたい。 学マスク生活のために、口形の指導は十分できなかった。また、適度な声の大きさがまだ十分身に付けられなかった児童もいる。良い話し方の児童を褒めることで、聞きやすい速さや丁寧な言い方で話ができるようになった児童が増えた。 学1時間ごとの学習のめあてをノートに書かせたり、ワークシートを使用したりしたことで課題を理解し、自分の考えを表現できるようになってきた。本文から重要な箇所を見つけることが上手になってきた。 学テストや書写などでは、文字の特徴を捉えて正しく書けるようになってきたが、宿題や普段のノートでは丁寧に欠けることがある。	
	算数	学たし算、ひき算の計算方法を理解し、正しく計算できる児童が多い。 学問題場面を理解し説明したり、自分の考えを相手に分かるように説明したりすることは、個人差が大きい。	・計算の速度に差が見られる。 ・問題をよく読み、課題を正しくとらえること。 ・自分の考えを相手に分かるように説明しようとする こと。	・毎日、計算の宿題を出し、週 2 回の朝の学習タイムで計算練習を継続的に行うことで習熟させる。 ・「分かっていること」「聞かれていること」を確かめながら問題を解くようにさせる。 ・絵や図などを用いて、自分の考えを表したり、1 対 1 で説明し合ったりする機会を多くもつようにする。	学毎日の宿題や朝の学習タイムの効果が見られ、計算の速度や正確さが増した。 学「分かっていること」「聞かれていること」に線を引かせたり、図に表したりすることで、問題を正しく理解できるようになってきたが、問題を自分で読む力にはまだ課題があり、問題場면을整理できないまま解答したことによるミスも見られる。 学ノートに自分の考えを書いたり、説明し合ったりする機会を積み重ねてきたことで、自分から説明しようとする児童が増え、友達と自分の考え方を比べることができるようになってきた。	
学年	教科	学習状況の分析（4 月）	課 題（4 月）	改善のための取組（4 月）	中間評価・追加する取組（10 月）	最終評価（2 月）
2	国語	学繰り返しのスピーチ指導や日々の活動を通し、順序立てて話せるようになってきている。自分の伝えたいことを整理して話せるよう指導し、少しずつ定着してきている。 学鉛筆の持ち方は繰り返し指導しているが、まだ定着していない。書く時の姿勢は書初め指導で重点的に指導し、正しい姿勢が身に付いてきた。今後も継続的な指導を行い、定着を図っていく。 学読み取りの学習では、必ず毎時間学級全体で文章を音読することで、文章を読むことに慣れるよう授業を行った。確実に読めるよう苦手な児童には指で文字を押さえながら読ませたり、授業内で線を引かせたりする活動を随時取り入れてきたことで文を読み取る力が少しずつ伸びてきた。 学書きたいことはたくさんあるが、相手に伝わるようにまとめて書いたり、助詞を正しく使ったりする力は、まだ十分付いていない。	・「いつ、どこで、だれと、どうした」など基本的な話の構造を理解し、話すこと。 ・正しい姿勢で書くこと。 ・大事なことを聞き取ったり、読み取ったりすること。 ・助詞を正しく使い、相手に伝わるように、自分の考えをまとめて書くこと。	・繰り返しスピーチを行い、回を重ねるごとに内容を少しずつ増やし、具体的な話ができるようにする。 ・授業の始まりに正しい姿勢を確認し、繰り返し指導していく。 ・文章を読むことに慣れるために、昨年度同様継続して、毎時間学級全体で文章を音読する。また、前時の学習で読み取った情景描写を音読に含めるよう、言葉掛けを行っていく。 ・全校朝会での校長先生の話について感想を書くことを繰り返し行い、話の聞き方を身に付けていく。	・繰り返しスピーチの活動を行ってきたことで、1 学期よりも話の順序を整理し、具体的に話せるようになった。1 学期後半から、スピーチ後の質問コーナーを設けたことで、話し手もより具体的に話そうという意識が生まれた。 ・1 単位時間、姿勢を保持できるよう、引き続き指導していく。 ・場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えることを意識して音読ができるようになった。更に良さを伸ばすため、良い音読を学級で取り上げ、引き続き励ましていく。 ・書く回数を増やすために、朝会の感想だけでなく、国語や算数では振り返りを毎時間行っている。助詞を正しく使えるようになってきているので、今後も個別の指導を取り入れるなどして、更に正しく使えるようにしていく。	調「話す・聞く」の領域については、区平均・全国平均とほぼ同じであった。スピーチ活動だけでなく、聞く姿勢や態度を向上させる指導を繰り返し行っていく。 学話を聞く姿勢が良くなったことで、話の内容を理解する児童が多くなった。 学正しい姿勢で書くことを繰り返し指導していたので、字を丁寧に書くことができるようになった。 調「読むこと」についても区平均・全国平均とほぼ同じであった。何が問われているかを意識させるよう指導したり、物語の読み聞かせを行ったりすることを通して、読書に親しむ活動を増やしていく。 調「書くこと」では、区平均・全国平均を下回っていた。主語や述語の役割を確実に押さえ、修飾語も入れた作文を視写したり、作文・感想文等「書くこと」に親しむ活動を取り入れたりした指導をしていく。

		学文章問題では、大切な言葉に線を引き問題の考え方を絵や図で書き表し、自分の考えを説明できるようになってきている。 文章問題をしっかりと読み取って、加法・減法のどちらを使えばいいのかを考えて解くことができるようになってきた。 学I C T機器を使って友達の考え方を見る機会を増やしたことで、友達の考えを自分の考えに生かすことができ、多様な考えをもつことができた。数え棒やブロックを実際に数える活動を意図的に入れてきたことで、10のまとまりを作って計算したり数えたりすることができるようになっていいる。	・繰り上がり、繰り下がりのある計算を正確に解くこと。 ・問題の意味を正しく理解して立式し、求答すること。	・朝の学習タイムに、東京ベーシック・ドリルを継続して行い、既習事項の定着を図る。 ・毎日プリントやデジタルドリルなどの宿題を課し、その日に学習した内容の習熟を図る。 ・文章問題では「分かっていること」「聞かれていること」に線を引く習慣をつけさせたり、自分の考えをノートに書き説明する場を多く設けたりしていく。	・学習タイムでは、繰り返し東京ベーシック・ドリルを行ったことで、基礎的な計算力が定着してきた。 ・毎日プリントやデジタルドリルなどの宿題を出し習熟を図っているが、正答率が十分でないため、今後も繰り返し行い、定着を図る。 ・授業では、文章問題の中で、「分かっていること」「答えること」を明確にしながら取り組んできた。正しく理解して立式できるようになってきたため、引き続き指導をしていく。	調基礎的な計算問題は、授業では、概ねできている。しかし、新宿区学力定着度調査では、区・全国平均を下回っていた。引き続き、繰り返しドリル学習を行ったり、単元末に習熟の時間を設けたりして基礎力を養う指導をしていく。 調活用力は、区平均・全国平均を上回っている。基礎基本だけでなく、難しい問題にも進んで取り組んだ成果が表れている。引き続き、応用問題に取り組むよう指導していく。 調思考力も区平均・全国平均を上回っていることから、題意を捉え考えて問題を解く習慣が身に付いた成果が表れたのだと思われる。引き続き、思考力をつけるために、I C Tを活用しながら思考の可視化を図り、深い学びに繋げていく。
3	国語	調朝のスピーチ活動や聞く姿勢や態度が向上し、「話す・聞く」力が伸びた。自分の考えを筋道立てて整理して話すことも少しずつできるようになってきている。 調・学「読むこと」に関しては、説明文も物語文も、区平均・全国平均を上回っている。日頃から積極的に読書に親しむ児童が多くなってきた。 調書くことでは、区平均は超えているが、全国平均を下回った。課題に沿って自分の考えをまとめる練習が必要である。 学漢字はできるようになってきたが、さらに文章の中で使うことができるよう引き続き指導が必要である。 調・学国語の学習に対する意欲が区平均や全国平均を下回った。学習の成果や学習への取り組み方を適宜評価していくことで意欲を高めていく。	・目的をもって、大事なことを聞き取ったり、読み取ったりすること。 ・課題に沿って、自分の考えをまとめ、筋道立てて話したり、書いたりすること。 ・文章の中で、既習の漢字を使うこと。	・目的をもって聞き取ったり、読み取ったりするために、学習課題を明確にした授業づくりを行い、読み取る内容を明確にする。 ・自分の考えをまとめ、筋道立てて話したり書いたりするために、書き方の例や枠を作成する。 ・作文を書く時間や考えを書く時間では、国語辞典を机上に置き、分からない既習漢字を調べられるようにする。	・読み取る内容を明確にした授業づくりを行ったことで、課題に対して自分なりの考えを深めることができるようになってきた。 ・自分の考えを書くことに慣れてきたが、一文が長かったり、主語と述語の関係がねじれていたりすることがある。 ・書き方の例を示しながら継続した指導が必要である。 ・作文の学習を行う際には教室に国語辞典や漢字辞典を用意することで、自ら漢字を使おうとする児童が増えた。	学読み取る内容を明確にした授業づくりを継続した。授業では文章中から根拠を探して読み取ることが徐々にできるようになってきた。 調比較的物語文の読み取りの方が説明文の読み取りよりも正答率が高い。今後は、説明文の読み取りで指示語や接続詞など注目すべき点を押さえながら指導にあたっていく。 学自分の考えを書くことに関しては、教科書などの例文を用いて指導を繰り返してきた。一文が短くなったり、主語と述語の関係が正しく使われたり、徐々に上達してきた。 調情報と情報の関係について理解し、内容の中心を明確にして書く問題で誤答、無回答が全体の4割を占めている。今後、説明文の要約など、文章中の情報を把握し、表現する指導をしていく。 調漢字の読み書きの全ての問題において、正答率が目標値を超えることができた。作文でも辞典を用いて漢字を使う習慣が徐々に身に付いてきた。

		【調】測定領域では全国平均を上回っている。長さや時間の計算など、学習タイムで繰り返し習熟したことが内容の定着につながった。 【調】数と計算領域では、かけ算は全国平均を上回っているが、繰り上がり、繰り下がりのある計算については課題があるので、さらに繰り返し練習する時間を設定し習熟させる必要がある。 【調・学】思考力を問う問題については全て全国平均を上回っており、問われている内容を理解したり、自分の考えを説明したりする力が伸びたと考えられる。	・繰り上がり、繰り下がりのある計算を正確に解くこと。 ・問題の意味を正しく理解して立式すること。 ・定規の目盛りを正しく読んだり、直線を引き作図したりすること。	・朝の学習タイムで、繰り上がり、繰り下がりの計算を継続的に解く時間を設ける。苦手な児童には個別指導を行う。 ・授業の問題を解くときに、「分かっていること」「答えること」を確認する時間を設け、問題の意味を理解させる。 ・定規の目盛りを正しく読むために、授業の中で I C T 機器を用いて読み取り方を全体に分かりやすく示すようにする。	・繰り上がりや繰り下がりの計算では正確性が高まってきた。今後の学習でも必要となる技能なので、継続した指導を行っていく。 ・文章問題の中で、「分かっていること」「答えること」を確実に確認してきた。自ら読み取ることができるようになってきているので、今後も継続をしていく ・定規の目盛りを読むために、デジタル教科書を活用し、全員で読み方の確認をした。今後は定規だけでなく数直線や目盛りの読み取りにも活用していく。	【学】朝の学習タイムなどで、繰り返し計算問題に取り組んだ。授業の様子からも計算の正確性が高まっている様子が見られた。 【調】繰り上がりが複数回ある問題に関しては9割以上の児童が正答しているが、波及的繰り下がりのある問題では目標値を下回っている。今後、波及的繰り下がりがある問題を中心に継続して指導していく必要がある。 【学・調】問題文の中から「分かっていること」「答えること」の確認を継続して行った。また、そのことから立式できる児童が増えた。学力調査からも立式に関する問題はすべて目標値を上回った。 【調】デジタル教科書等を用いて、定規やはかりの読み取りを行ってきた。見方などを確認しながら授業を進め、分かりやすい授業を心掛けた。学力調査では、はかりの読み方に関する問題の正答率が目標値を上回り9割以上の児童が正答することができた。しかし、物の重さを推察し、適切な単位を使うことに関しては目標値を下回っている。今後、長さや重さなどの指導の際には実際に計測させるなど実感を伴った活動を重視し、単位を理解させていく必要がある。
4	国語	【調】毎日音読を家庭学習に設定した成果が出て、語彙の取得につながり、言葉の学習に関する項目で、全国平均を上回った。 【調】漢字小テストを繰り返し行ったことにより、漢字の読み取り問題、書き取り問題ともに区平均を大きく上回る結果となった。 【調】文章を書くことに関する項目で、全国平均を下回る結果となった。自分の考えをまとめられるように、作文や紹介文を書く機会をより多く作っていく。 【調】物語文の内容の読み取りに関する項目は、区の平均値を大きく上回った。日々の読書への意欲的な取組が、文章の読み取りにつながったと分析する。	・漢字を正確に書くこと。 ・主語、述語を落とさないよう気を付け、一文の長さを適切にすること。 ・自分の思いや考えを文章にすること。	・前学年の漢字を用いて文章を書く学習を行う際や、新出漢字の熟語を調べるために、国語辞典や漢字辞典を活用させる。 ・新出漢字を使った短文作りを行い、活用する力を高める。 ・漢字小テストでは新出漢字だけでなく、既習の漢字練習やテストを行い習熟させる。 ・登場人物の心情を読み取らせ、自分の思いや考えを文章に書いて、発表し合う活動を重視する。 ・主語、述語の関わりを考えながら短い文で書く活動を重視する。	・筆順や字形が整ってきた。 ・デジタルドリルの学習履歴を活用し、漢字について一人一人の進捗状況や課題を明確にし、指導する資料としていく。 ・漢字小テストを繰り返し行い、定着を図る。 ・登場人物の心情を読み取り、自分の思いや考えを文章に書ける児童が増えてきた。 ・学習に関連した作者の作品を読むよう読書の時間を確保していく。 ・単元ごとのまとめで、自分の考えを表す時に、主語・述語を意識して書く児童が増えてきた。	【調】物語文の読み取りでは、全国平均や区の平均を上回った。登場人物の行動や気持ちについて叙述に基づいて捉える問題では、8割以上の児童が正答することができた。 【調】説明的文章の内容を読み取る問題では、全国平均や区の平均正答率を上回った。しかし、情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付け要約する設問では、正答率が低かったので、今後も継続的な指導が必要である。 【調】文章を書くことに関する項目では、全国平均や区の平均正答率を大きく下回る結果となった。自分の考えを書かせることは、授業の中でも重点的に指導した。しかし、構成が正確でなかったり、自分の考えと事実が混ざったりすることもあり、今後も継続的な指導が必要である。 【調】「漢字を読む・書く」の項目では、全国平均と区の平均正答率を上回った。定期的に漢字小テストを実施し、間違えた問題については、直すようにさせたことが成果につながったと考えられる。

	算数	【調】数と計算の項目では、新宿区学力定着度調査で全国平均を上回ってはいるものの、日々の習熟の時間での問題演習でケアレスミスが多く見受けられるため、さらに習熟させる必要がある。 【調】図形の問題では平均正答率が区の平均より上回った。図を描く活動を多く取り、作図の知識を確実に身につけていったので、全体を通して知識・技能の観点では全国平均正答率を大幅に上回る結果となった。 【学】自分の考えをノートに書き出すことができるようになり、考えを整理して解き方を導けるようになってきた。 【学】説明する場面を設定し、相手の説明の中で、良かったことを全体の間でも共有したことで、相手に分かりやすく説明しようとする意欲が高まった。	- 自分の考えを順序立てて説明すること。 - コンパスで正確に作図すること。 - 文章問題の解答で、単位が抜け落ちないようにすること。	- 課題解決をする際には、自力解決できるよう、既習事項を想起させ、自分の考えを順序だてて説明させる。 - 学習タイムを活用し、年間を通して、定規やコンパスで正確に図形をかく学習を重視する。 - 家庭学習ではデジタルドリルを活用し、単位記入の定着を図る。	- ノートに自分の考えを書き、自力解決する授業パターンが定着してきた。 - デジタルドリルの学習履歴を活用し、学習内容について一人一人の進捗状況や課題を明確にし、指導する資料としていく。 - 作図を正確に書こうとする意識は高まってきた。作図が正確にできるように、デジタルドリルで線の引き方の理解をさせる。更に、プリントで繰り返し作図の練習をさせる。	【調】数と計算の項目では、新宿区学力定着度調査で全国平均と区の平均正答率を上回った。デジタルドリルや学習タイムを活用し、年間を通して練習問題に取り組んだ結果、正しく計算できるようになったと考えられる。 【調】変化と関係とデータの活用の項目では、新宿区学力定着度調査で全国平均と区の平均正答率を上回っているものの、今後も学習タイムやデジタルドリルを活用し、繰り返し復習をすることが必要である。 【調】図形の項目では、新宿区学力定着度調査で区の平均正答率を下回っているので、プリントで繰り返し作図の練習をさせることが必要である。
5	国語	【調】説明的文章の読み取り問題では、区の平均正答率を上回った。特に、情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する設問では、9割以上の正答率となった。 【調】物語文の読み取りでは、区の平均を上回った。登場人物の行動や気持ちについて叙述に基づいて捉える問題では、8割以上の児童が正答することができた。 【学】自分の考えを書かせることは、昨年度、授業の中でも取り入れた。書くこと自体に抵抗感は減ってはきている。しかし、構成が正確でなかったり、自分の考えと事実が混じったりすることもあり、今後も継続的な指導が必要である。 【調】漢字の読み・書きでは、正答率が高かった。特に読みの問題では正答率が10割に達した問題もあった。 【学】タブレットパソコンで学習する際、ローマ字で入力することができるようになった。	- 物語全体の構成を捉えること。 - 自分の思いや考えを、相手に分かりやすく伝えるために、構成を考えて書くこと。	- 登場人物の相互関係や心情を捉える活動を、学級全体で練習した後、個人で行うことを繰り返し、自分で物語を読み取る力を付けさせていく。 1日の振り返りを毎日短文で書き、自分のしたことと考えたことをはっきりさせる練習を行う。 - 授業の中で、文章のつながりや語尾に注目させることで、事実か考えかを理解できるように指導する。 - 書く時には、型を示すことから始め、書き方のレパトリーを増やせるようにする。 - 授業の終わりに、授業で学んだことや考えたこと等を振り返り、自分が伝えたいことを正確に伝える練習を積み重ねる。	- 個の読みの時間を授業の中で多く取るように設定した。叙述に基づいて登場人物の心情を読み取ることができるよう「読みの視点」を確認し、個の読みの時間に提示することによって、児童は自分自身で物語を読み取ることができるようになってきた。今後も文学的な文章における精査・解釈の面でより具体的に物語の全体像を想像したり表現の効果に着目したりしながら読めるよう指導する。 - 毎日振り返りを書く活動を続けている。毎日書いていると、内容が似通ってきてしまう。自分のしたことだけでなく、思いや考えを詳しく書いている児童を紹介することで、どのように書くと相手に分かりやすく伝わるかの見本を常に示していく。 - 授業の振り返りでは、「～ができた」と自分のできたことだけを書いて終わりにしてしまうことがある。振り返りの視点を示すことで、その視点に沿って詳しく書けるように指導を続けていく。	【調】学年全体の平均正答率は77.7%で、区や全国の平均を上回った。特に、活用的な力の正答率が高く、身に付けた基礎的な力を生かして問題を解くことができていると考えられる。 【調】「我が国の言語文化に関する事項」は、区や全国の平均を下回った。漢字の由来についてや、修飾語が指す内容について問われる問題に苦戦していたようだ。漢字については、日々の授業の中で由来や部首などを取り上げ、理解を深められるようにする。修飾語についても、文法の学習だけでなく、「読むこと」の学習の中でも意識して児童に問う等、言語に対する興味・関心を高めることで、理解を深められるようにしていく。 【調】「文章を書く」問題では、指定された内容で文章を書くことはできていたが、より自分の意見を明確に書くことができると良い。毎日振り返りを書く活動を続けているので、視点に沿って詳しく書けるように引き続き指導していく。
	算数	【調】除法の筆算に出てくる数の意味を理解しているかを考える問題では、区の平均正答率より、2割高い正答率となっていた。機械的に問題を解くだけでなく、意味を理解していると考えられる。 【調】グラフの読み取りや図形の問題では、区の平均正答率は上回っているものの、今後も学習タイムを活用し、繰り返し復習をすることが必要である。	- グラフを正確に読み取ること。 - 作図を正確に行うこと。	- 毎週火曜日と木曜日の朝学習の時間を活用して確実に復習時間を確保することで、基礎的・基本的な力を高める。 - 学習用具の使い方を確認し、正確に使えるようにする。 - ICT機器を活用して図形のイメージをもたせ、作図をスムーズに行えるようにする。	- 朝学習や宿題では、タブレット端末を活用してデジタルドリルで算数の復習を行っている。間違えた問題はやり直し、その場ですぐに答え合わせをすることで確実に基礎・基本の内容が身に付くよう指導する。 - 単元の後半には、毎時間演習の時間を確保する。演習プリント等を活用することで、一人一人の習熟度を教員が理解し、フォローできる体制を日常的に作る。	【調】学年全体の平均正答率は78.9%で、どの観点においても、区や全国の平均を上回った。 【調】「小数第一位×小数第一位（純小数同士の乗法）」「文章問題を解くために小数の除法の立式をしている」「小数の除法を用いて解き方の説明をする」問題は目標値と同程度の結果だった。どれも、小数の計算である。立式や解き方の説明は、授業の中でも力を入れて行ってきたが、立式の意味やどのように解いたかを、より自分自身で説明できるような学習を大切にしていく。

6	国語	【調】物語文の読み取りでは、全ての設問で全国平均を上回った。物語文の学習で、途上人物の心情について叙述を基に想像する活動を繰り返し行ってきたことが、成果として表れたと考えることができる。 【調】説明文の読み取りでも、全ての設問で全国平均を上回った。段落相互のつながりやそれぞれの段落や文章の役割を読み取る学習を行ってきたことで、文章全体の構成を捉えることができるようになった。 【調】漢字の読み書きの設問では、正答率にばらつきが出た。定着している漢字とそうでないものがあることが分かる。既習漢字を繰り返し学習する機会を設定する必要がある。 【調】文章を書く問題は正答率が特に低かった。文章の構成について理解し、自分の考えを整理して書く活動を繰り返し行う。	・既習漢字の定着させること。 ・構成を考えて文章を書いたり、事実と考察を分けて整理して書いたりすること。	・新出漢字の学習では、読み、画数、部首、熟語などを調べたり、短文作りを行ったりする時間をとる。 ・漢字テストに向けて漢字プリントを配布し、自主的計画的に取り組めるよう指導する。 ・短作文を多様な形で定期的に行い、スキルアップを図る。 ・毎時間の自分の学習の成果と課題を文章で表現する振り返りを行う。	・新出漢字の学習では、毎日の家庭学習で読み、画数、部首、熟語などを調べたり短文を作ったりしてノートに書く学習が定着してきた。習ったばかりの漢字は書けるが、時間が空くと書けなくなってしまうため、タブレット端末を活用し、定期的に復習問題に取り組みせ、学習内容の定着を図る。 ・漢字学習の時間だけでなく、他教科のノートや作品にも漢字を使うことが当たり前になるよう、こまめに言葉掛けし、指導していく。 ・授業の学習のめあてに対する考えは、多くの児童がもてるようになってきている。自分の学習の方法を振り返る時間を単元末に設け、学習の自己調整につなげていく。	【調】情報の扱い方、言語文化、話すこと聞くこと、読むことにおける正答率は、いずれも目標値を大きく上回り、区や全国の平均も上回っている。 【調】書くことにおける平均正答率が66.3%で、目標値は上回っているが、他の領域と比べて低く、区平均も下回っている。白紙答案も多かった。観点別では「主体的に学習に取り組む態度」も低めなことから、まずは「書く」ことへの抵抗を減らすことが必要だと感じる。日常的に書くことを取り入れていく。 【調】言語の特徴や使い方に関する事項の学年の平均正答率は75.0%で、目標値を上回った。区や全国の正答率も上回っているが、他領域に比べるとやや低い傾向にある。 【学】国語の授業に限らず、他教科や生活場面での文章を書く中で、漢字を適切に使う力を伸ばしていく必要がある。
	算数	【調】小数のかけ算・わり算の設問では、全国平均正答率を下回るものが多かった。小数の計算が整数の計算を基にして計算できることや、小数の移動の仕方などを、再度指導する必要がある。 【調】五角形の角の和の求め方を説明する設問では、区平均を上回る正答率だった。これは、日頃から考え方を説明し合う活動を繰り返し行ってきたことの成果と捉えることができる。 【学】算数が苦手な児童に対して得意な児童が教えるなど、学び合いができる環境を整え、学年全体で算数の力を引き上げているようにする。	・小数のかけ算・わり算などの計算を正確にすること。 ・式や図を読み取ったり自分の考えを表現したりする力を高めるために学び合いの場や時間を設定する。	・朝学習を中心に東京ベーシック・ドリルを活用し、スキルアップを図る。 ・ICT 機器や個々のタブレット端末を活用し、互いの考えを共有することができるようにする。 ・資料の整理・活用の学習にプログラミングを取り入れ、論理的思考力を伸ばす。	・東京ベーシック・ドリルは朝学習を中心に組みめた。苦手な児童への支援にも活用していく。 ・ICT 機器を活用し、視覚的に考えを共有する場面を多く設定できた。単元末の演習等を中心に、個別最適化な学びにつなげる場面を増やしていく。 ・12月にロボットを使ったプログラミング授業を行った。結果を予測して組ませたり修正したりすることでプログラミング的な思考力を伸ばせるような指導を行った。また、料理など生活の中で活用できる場面について考えさせ、児童がその意義を実感できるようにした。	【調】学年全体の平均正答率は75.1%目標値、区平均、全国平均を上回っている。 【調】解答が記述式になっている問題の平均正答率が48.9%で、他に比べて著しく低い。前述した国語の「書くこと」にもつながるが、自分の考えを筋道立てて書くことを日常的に行い、抵抗感を減らしていく必要がある。 【調】苦手な問題や面倒な問題には取り組まない傾向のある児童も見られる。今やっている学習の意義を実感させたり、できた達成感を味わわせたりと、主体的に学ぶ態度を培っていく。
音楽	【学】音楽活動に興味関心をもって、多くの児童が意欲的に取り組んでいる。 【学】学びに向かう意識の低い児童もいる。		・自分自身や友だちの思いを大切にしたり、表現活動すること。 ・活動や音に対して、注意深く聴いて感じる。	・児童の発達段階と能力をふまえ、スモールステップで課題を設定する。 ・練習を重ねることで、課題を解決し達成感を味わえるよう教材を提示する。	・スモールステップでの課題に取り組んでいる。 ・振り返りカードや発言から、主体的に意欲をもって課題に取り組む態度が育ち、自らの成長や達成感を味わっていることを見取ることができた。	・コロナ渦だからこそ、自分自身の考えや友達の発言を大切に時間をもてたことで、表現活動に柔らかさが出てきた。 ・練習を重ねることで達成感を味わう場面が増えた。
図工	【学】新しく学習する道具や材料に関して、意欲的に取り組み、多くの児童が自分自身の思いに合わせて表現活動をしようとしている。 【学】学びを深めていくために創意工夫をしていこうとする意欲が低い児童もいる。		・表現する楽しさを感じさせたり、自分自身の見方や感じ方を広げたりすること。 ・材料や用具を大切に扱い、使用したものをきちんと片付ける力を育てること。 ・自分自身の思いを大切にしたり表現活動すること。	・題材の振り返りの鑑賞だけでなく、製作途中の鑑賞を取り入れ、相互の学びあいの場を設定する。 ・対話的な鑑賞活動を通し、多様な表現があることを知り、表現する楽しさを感じさせる。 ・図工室の整備を意識させ、集中して活動ができる学習環境をつくる。 ・思いをもって作品に取り組み、自主的に活動するために端的な導入と、慎重な材料選びをする。	・製作途中の鑑賞では、友だちの作品からヒントを得たり、会話から発想を広げたりしている。低学年は特に発表会という位置付けで鑑賞を行うことで、主体的に「見る・感じる」態度を育てていく。 ・鑑賞活動では、お互いの良さを認め合うことができてい。ただ、「いいね」という意見だけでなく、造形的な視点での鑑賞を深められるかが課題である。引き続き、「色・形」へ注目させる働き掛けを行っていく。 ・図工室の整備を行い、児童の導線など活動する場の改善を図った。掃除や片付けに課題が残るため、学年に応じて、グループ単位で片付けを行うなど相互に働きかけられるような仕組みを整える。 ・教師の説明時間等をできるだけ短くし、制作活動の時間をより多く確保することにより、児童が自分なりに納得のいく作品を完成させたり、想像したことを実現することに熱中したりすることができるようにする。	・低学年は発表会という位置付けで鑑賞を行うことで、主体的に「見る・感じる」ことができていた。また、お互いのよさを認め合う温かい言葉を伝え合っていた。 ・鑑賞活動では、造形的な視点を定め鑑賞している。子ども一人ひとりに感じ方の違いはあるが、共通の概念としての一般的な心地良さも感じられるようにしていきたい。 ・図工室の掃除や片付けに課題があったが、自分の机、自分の周り、友達の手伝いなど相互に働きかけられるようになってきたので定着させたい。 ・活動時間や場所を保障し、児童が自分なりに納得のいく作品を完成させたり、想像したことを実現することに熱中したりすることができるように引き続き取り組む。

特 支	学異学年と一緒に学習する環境下であり、また継続した学習に取り組むことができず、定着度が十分でない児童が多い。(今年度については、オンライン授業が主体)	・既習事項の定着。学習を生活に生かすこと。 ・主体的に学び、自分の考えを伝えること。	・ICT 機器や個々のタブレット端末を活用し、学習したことを振り返ることができるようにする。 ・体験的活動を通して定着を図る。 ・東京ベーシック・ドリルやミニテストに取り組み、学習内容を定着させる。	・タブレット端末の発表ツールを活用し、学習の振り返りを行った。タブレット端末を活用した低学年の振り返りは入力の仕方が課題であるため、児童一人ひとりに合った入力方法を支援する。 ・理科の実験は直接体験できるものは、用具を病棟に届けて行った。調理や栽培や観察は、オンラインで行い、退院時に持ち帰ったり、自宅で取り組めるようにしたりして、定着を図った。 ・ミニテストは適宜取り組んだ。実態に合わせて、精選して取り組んでいく。	・児童の実態によって、発表ツールやデジタルドリル等を活用し、振り返りに、取り組んだ。また、発表ツールを板書やノートとして使用することで、記録が残る形の振り返りができるようになり、学習を定着させることができた。 ・給食など直接体験が難しいものは、オンラインで繋ぎ、給食当番の様子を見たり、本校の児童の話を聞いたりすることで、疑似体験として取り組んだ。児童が望む体験に取り組めるよう、今後も、オンラインや本校の協力を得て、多くの体験的活動に取り組んでいく。 ・東京ベーシックドリルや個別に作成したミニテストなど、個々に合わせたテストを使用し、取り組むことで、既習内容も振り返りながら定着させることができた。
--------	--	---	--	--	--

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。